

AJU愛実

編集：特定非営利活動法人愛実の会

- ・愛実の会事務所
- ・居宅介護事業所あみ
- ・生活介護事業所障がい者デイセンター愛実
(大地の家／紙風船)

定価：一部100円

第53号会報（15周年記念）

福祉の創造 幸せのかたち/ 理事長 戸田 真二

次の目標に向かって/ 理事 宮川 優子 ・ 愛実の会のあゆみ

大地の家（生活介護）

紙風船（生活介護）

愛実の会15周年記念行事・COPAIN・親の想い

お祝いのことば / 島 しづ子

寄付者名簿 ・居宅介護事業所あみ

活動紹介(記念行事より)



福祉の創造 幸せのかたち

理事長 戸田真二

現在、障がい者デイセンター愛実(生活介護)に通うメンバーは28名。平均年齢は36歳です。内40歳以上の方が16名通われています。

1987年当時、港養護学校の重心(重度心身障がい者)の親たちが集まって創られたのが愛実の会の始まりでした。前理事長の島さんも、同じ障がいを持つ親の一人として、子どもたちの卒業後の行き場を夢見たのでした。あれから35年、いくつものかたちを変え現在のNPOに至ります。メンバーもこの間に様々な出会いや経験を通して成長されてきたように思います。しかし一方で、家族の高齢化が進み、親の介護の限界が切実な問題となっており、親亡き後の終の棲家をどのように考えるのか、新たなライフステージを創造していくことが大きなテーマとなってきました。切羽詰まってから考えるのではなく、今から準備していくことの必要性を感じています。

愛実の会の特色は「家」をイメージしています。管理された施設を作るのではなく、家庭的なぬくもりがあり、安心できる居場所があり、ひとり一人が認められ、そして自分の出番がある。お世話される人とする人の関係ではなく、分かち合い、お互いに尊重しあえる関係を大切にしています。すべての職員をアシスタントと呼ぶ意味は実はここに 있습니다。そして幸せのかたちも十人十色で、様々な個性と多様性の中で、違いを受け入れ、個々の思いを大切にすることを目指しています。それぞれに幸せのかたちがあるということです。

お子さんが生まれてきてから、〇十年、大変な子育てのご苦労と共に家族の愛情の深さを感じます。まさに親子一心同体、特に重心の方は20歳まで生きられないと宣告を受けた方も多くいると聞きます。医療の発達により長生きできるようにもなりました。本来親離れ、子離れしてそれぞれ自立していくことが、普通の姿であるように思っていました。しかし、そうでもないこともわかりました。それぞれの幸せのかたちに寄り添うこと。孤立しないよう、いざという時に安心して迷惑をかけられる関係を作っておくこと。今までの人生の歩みに共感しつつ、選択肢を広げ、共に生きる社会を創造していくことが愛実の会のミッションであることを、改めてこの15周年の時に感じています。

日本国憲法 第十三条 (幸福追求権)

すべて国民は、個人として尊重される。生命、自由及び幸福追求に対する国民の権利については、公共の福祉に反しない限り、立法その他の国政の上で、最大の尊重を必要とする

次の目標に向かって

理事 宮川 優子

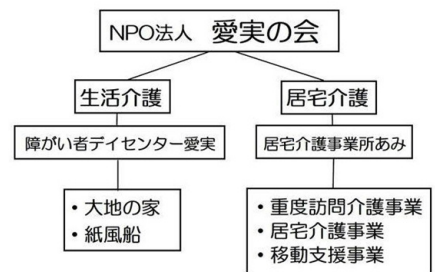
会報読者のみなさま、15年間愛実の会をご支援いただき、ありがとうございます。障がい者向けの公的な支援の制度が徐々に整ってきた中で重複の障がいがある方々が充実した毎日を送れるように日中活動の場所を作ってきました。親が高齢になり介護ができなくなった方への支援が課題となり、今回のコパン(シェアハウス)がその解決への一歩となります。一昨年に30歳で亡くなった息子が大好きだった愛実の会を今後も理事として支えていきたいと思えます。

障がいの重い人は何もできないのだからみんなですべて守ってあげなければと思っていませんか。紙風船のメンバーは人形劇を見たお客さんを愉快的な気分にして、幸せにできるのです。大地の家のメンバーは出かけるのが大好きだから近くの公園でも東京スカイツリーでも車いすに乗ってどこでも行きます。新鮮な空気を味わい、美味しいものを食べて、旅のウキウキで満面の笑顔。優しく自然体のアシスタントの振る舞いととも周囲の空気を温かくできます。

日本のGDPや経済成長率が芳しくないという暗いニュースが報じられます。GDPは経済力を数値で示したものに過ぎず、豊かさの指標ではありません。豊かな社会とは弱い人が笑って暮らせる社会ではないかと考えます。コロナが収まりましたら以前のようにあちらこちらに出かけ、笑顔を振りまいて皆を明るくしましょう。どうか愛実の会を今後ともご支援ください。

愛実の会のあゆみ

- 1987年 愛知県立港養護学校の親が集まり活動開始
- 1993年4月 「愛実デイ・スクール」スタート
- 1995年4月 「愛実友だちの家」開所(名古屋市補助金)
- 1996年4月 人形劇団「紙風船」結成(無認可)
- 1997年4月 「大地の家」開所(名古屋市補助金)
- 2003年4月 居宅介護事業を開始
小規模作業所重度身体障がい者の施設「紙風船」開所
- 2007年1月 特定非営利活動法人「愛実の会」設立
- 2007年4月 「愛実友だちの家」「大地の家」「紙風船」が合併
生活介護事業スタート
- 2010年4月 名古屋市港区木場町に統合移転し「障がい者デイセンター愛実」となる
- 2018年3月 認定NPO法人取得
- 2022年9月 シェアハウス COPAIN(コパン)開始



愛実の会のパンフレットが新しくなりました。
こちらのQRコードからから、見ることができます。

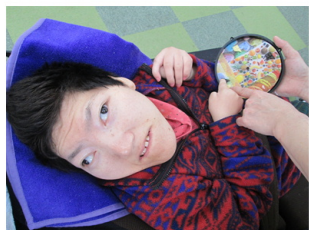




大地の家

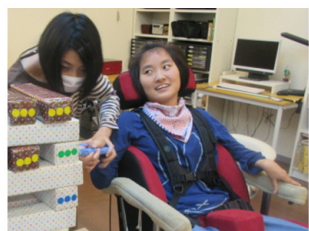
15周年
(2017-2022)

この5年を振り返って



2017年2月に大地の家は遠足として、シンガポールに行きました。

これは2008年に初めての海外への遠足としてグアムに行った時の挑戦や希望という思いを持ち続け、再び海外に行きたいという思いを実現したものでした。



その後、2018年春には太平洋フェリーランチバイキングクルーズ、秋には新幹線で京都(映画村と水族館)、2019年にはリフト付き観光バスを貸し切り、赤沢自然休養林(長野県)にも行きました。

どの遠足も現地ではしか体験できないことを体験しました。また、メンバーだけでなくメンバーのご家族にも参加していただき、大人数で同じ時間を過ごし楽しみを共有したものでした。



2020年には本格的に新型コロナウイルス感染症の影響を受けることになりました。当初は散歩で外に出ることもはばかられ、室内での活動が中心となりました。

室内での活動も感染症蔓延前と同じようにはできなくなり、消毒を含めた物品管理を徹底することが大きな負担となりました。



次第に気持ちも下向きになりがちでしたが、毎日変わらず通ってくれるメンバーの笑顔を見ていると、次第に気持ちが前を向くようになりました。

室内での活動も充実したものにし、更には外に出にくい分より活発な活動を行うよう意識し始めました。



また、2021年からは「散歩外出」と称して外にも出かけるようになりました。

1年余りの間外に出られなかった分、それまでの外出活動、遠足活動のありがたみをひしひしと実感しました。

現状では、まだ屋内への外出活動は行っていません。

この先まだまだ感染症の影響を受けることと思います。

その時々にあったことを考え、工夫を凝らしながら、様々なことを最大限に楽しんでいけるよう前を向いていきたいと思っています。



次の5年に向けて-大地の家への期待-

法人設立15周年を迎えるにあたり、大地の家に関わる方たちの思いをお聞きましたので紹介します。

【メンバーの親より】

- 外出したりして本人にとって「楽しい」と思えるような日常を過ごし、少しでも自立できることを願います。
- コロナ禍になりコロナ前の普通の日常のありがたさを感じています。これからも穏やかな笑顔の多い日々を過ごせることを願っています。
- 緊急時などに通所やショートステイをお願いできると嬉しいです。慣れた所で慣れた人と過ごすことができると、家族は安心できます。
- コロナが終息して外出ができるようになってほしいです。5年後も大地の家、コパン、自宅で楽しく生活ができていのように願っています。
- 親も5年後には70歳を越えます。現状維持がベストですが、多くの人の力を借りることになると思います。良いお知恵をお貸してください。

【アシスタントより】

- 毎日楽しくメンバーと一緒に笑いながら過ごしていきたい。早く外出、外食、遠足に行けるようになるといいなあ。
- メンバー、アシスタントが変わらず通い続けられることを願います。
- 室内でも外でも充実した活動で新たな歴史を刻んでいきたいです。
- 変わらずメンバーが楽しく過ごせる場所であってほしい。
- これからもメンバーとともに様々な活動をして、アシスタントが協力し合い、笑顔あふれる大地の家であってほしい。
- 現状ある決まった時間の流れに縛られず、柔軟なサービスを展開したい。安全かつ安心して関わることのできる関係づくりをしたい。
- メンバーもアシスタントも「大地の家へ来ると気持ちが元気になるね」と思えるような場所であってほしいと思います。
- 5年後も働いていたい。遠方へのお出かけにも参加したい。
- コロナ禍により制限もありますが、今できていることを継続しながら、アシスタント同士で協力し合い、今以上に大地の家は居心地がいいと思っただけのよう心がけていきたいです。
- コロナが終わり、コロナ前のように皆で給食が食べたいですね。介護ロボットさんと共に働けるといいなあ。
- メンバーもアシスタントもひとり一人が大切にされ、お互いに支えあえる関係が築ける場所であり続けてほしい。メンバーから多くの元気をもらい続けたいです。
- メンバーとアシスタントの個性が発揮され、皆が活発に過ごせる場所であり、メンバー一人ひとりに寄り添える関係づくりをしたいです。





紙風船のページ



紙風船が飛び続けていくために

紙風船のメンバーは、テーマでもある「楽しく元気に出かけよう」をモットーに、本当にいろいろな所へお出かけしてきました。

また、紙風船といえば人形劇。毎年のパペットフェスティバルをはじめあらゆる所で、時には遠征をして、人形劇を多くの皆様に届けてきました。外出レクもあたりまえに実行していたのです。メンバーはいろいろな経験をし、成長もしてきました。

しかし、2020年2月のレクを最後にその方向性が全く転換してしまいます。新型コロナウイルス感染症の蔓延です。初めは、メンバーもアシスタントも戸惑い気分も沈みがちになりました。紙風船らしくない雰囲気の中、「このままではいけない、もう一度自分たちで飛び立とうよ!」と一念発起。出かけられないのなら室内でできる最大限の事を探そうとみんなで知恵を出しあいました。自主製作の動画やパネルシアターの投稿、音楽大学とのコラボ…。その中でも一番の取り組みは新作「はだかにされた王様と大臣」を作り上げる事でした。



取り組んだこと～動画投稿・ボッチャ・パネルシアター～



配信公演スタート！

先号でお知らせしました、紙風船新作人形劇「はだかにされた王様と大臣」のお披露目がついに実現しました！

今回は会場にお客さんをお迎えしての公演ではなく、zoomを使った配信公演という形となりました。配信公演をするにあたり、舞台上とは違った「演じ方」「見せ方」があるということを実感し、少ない時間の中でメンバーもアシスタントもおぼら先生のご協力のもと集中して稽古に取り組みました。

当日出席するメンバーは全員が主役。それぞれの役割りに全力を出し切りました。当日の生配信にはメンバーのご家族が参加してくださり、少しですがやり取りもでき、楽しい時間を共有することができました。また、新作を作るにあたってクラウドファンディング等でご協力頂いた方々にもYouTubeを通してお届けすることが出来ました。今年中にもう一度、配信での公演を計画中です。これからの公演の方法を考えていく良い経験にもなりました。



メンバーの想い

これからも紙風船と共に
がんばります！

たくさんお話を
していきたい！

いろいろな作品に
チャレンジして、多くの
人に観てもらおう！

今のままの
アットホーム
な紙風船で！

マイペースで！

いろんなところへ
出かけたくな...

またたくさんの人と
関わっていきたい

人形劇をがんばっ
ていくよ！

「今」を受け止め、前向きに進もうとしているメンバーの声です。月並みかもしれませんが、アシスタントはそれを受け止め一緒に歩んでいきたいと思っています。

愛実の会15周年記念行事

2007年1月NPO法人愛実の会設立からこの度15周年を迎え、11月3日に記念の祝会を行いました。コロナ禍により人が多く集まる集会を避けるため、会場を3か所分けてオンラインで結び、更にZoomを使うハイブリッド形式での開催となりました。

オープニングは前理事長の島さんの沖縄からのビデオレターから始まり、10周年以降の5年のあゆみを紙風船・大地の家それぞれが動画を作成し紹介をしました。コロナ禍前後の活動の様子を振り返り、更にこれからの5年をイメージしたもので、動画制作のクオリティーの高さにはびっくり。その後はシェアハウスの様子をお披露目し、最後に理事長より未来に向けた思いが語られました。

愛実の会の理念のひとつに「メンバーの必要に応じて、社会資源を活用しながら、一生涯支えていくことを目指す」とあり、シェアハウス構想は、この具現化により新たなかたちを生み出しました。15周年は通過点ではありますが、メンバーの笑顔をイメージしながら、また新たな一歩が始まりました。



シェアハウスが始まりました



2022年9月6日、愛実の会のシェアハウス第一号「COPAIN(コパン)」が始まりました。

COPAINとは、フランス語で「友だち」の意味です。ことばの成り立ちはCO-PAINとわけることができ、接頭辞CO=ともに、PAIN=パンというようになります。

起源はパンを分かち合う人という意味です。現代ではパンを分ける、すなわち「一緒に暮らす人」という意味で使われるようになりました。

愛実の会での初めてのメンバーの共同生活を支援するという取り組みは、これまでに経験のない未知の領域です。



メンバーにとっても、親元を離れての初めての共同生活の開始です。未経験の出来事にスムーズに慣れることができるよう、まずはメンバー2名の共同生活からのスタートとなりました。多くの希望と大きな不安を背負ってのスタートとなりますが、その未来が障がいを持つメンバーの地域生活を支える基盤となれるよう、アシスタント一同真摯に取り組んで参りたいと思います。

引き続きのご支援をよろしくお願いいたします。

アシスタントの想い

2022年7月21日、賃貸住宅の申し込みに行ってきた。

いよいよ愛実の会初のシェアハウスが始まろうとしている実感が湧いてきた。

一方でメンバーの精神的な負担を極力抑えつつ、うまく運営できるのだろうかと不安に襲われた。それからはあっという間の出来事で、8月はほぼ毎日シェアハウスの開始に向けてあちこちに出向くこととなった。

住宅設備の業者、家具屋、家電販売店のみならず、相談支援事業所、区役所の福祉課。

初めての取り組みに、どこへ行っても打ち合わせが欠かせなかった。

打ち合わせを重ねる中で、シェアハウスに対する思いに変化が現れた。

「準備に忙しすぎて失敗するのではないだろうか」、「うまくできるのだろうか」という不安から、多くの機関と関わり、事業所の垣根を越えて意見を出し合う中で、「多くの人に支えられているんだ」、「自分たちの法人以外にも頼ることができる場所があるんだ」という安心感に変わっていった。

これはメンバーの生活にとっても、同じことが言えるのではないだろうか。

これまでは家族の中で守られ、支えられてきたメンバーの生活が、家族の枠を超えて外に出ることで、より多くの支援者に接することができるのだと思う。

家族と同じにはなれないが、それでも第二の我が家、ひいては第二の家族に近い存在になれるよう、シェアハウスでの支援に全力を投入し、メンバーとともにより良い生活の実現をしたいと思う。

親の想い

藤原 由美子

2泊3日のシェアハウスが始まりました。

コパンでちゃんとごはんたべているのかな？今頃は何をやっているのかな？と、ふと思う事が多々ありました。アシスタントの方から「範さん、テレビを観たり、YouTubeで音楽や昔話で楽しんでいるよ。」と聞き親が思う程、心配なく自分なりに一生懸命頑張っているなど感じて少し安堵しました。

これから3泊4日と週半分を過ごします。両親が亡き後も、コパンで楽しく過ごせるように願っています。

戸谷 令子

たなぼた的に舞い込んできた、シェアハウスへの入居の話。

学卒後から、できるだけ早期に親亡き(亡くならなくとも自分が要介護になった)後を託せる、家庭に代わる息子の居場所を確保しておきたかったので、即答で受けました。息子も一緒に説明を受けて決定！兄も双児の弟も家を出ているので、自分もという想いは抱いていたはず！

徐々に慣れて、楽しめるようになりつつあるところだと思います。



お祝いのことば

うふざと教会牧師・抗議船船長見習い 島 しづ子

愛実の会設立15周年おめでとうございます。

設立1周年、5周年、10周年の記念行事のことを思い出します。またNPO法人設立前の「愛実の会」や「紙風船」の歴史を振り返ると、懐かしい方々の姿が蘇ってきます。私自身が仲間たちの卒業後の居場所作りを考え、親の皆さんと活動を始めたのは1987年からで、35年になります。最初は無い無い尽くしでしたが、改革派八事教会の方々から始まって多くの教会の方々、YMCAメネット会さん、ボランティアさん達が訪問して助けて下さいました。次第にアシスタントも増え、制度の後押しもあって現在のように専任のアシスタント中心に運営してもらえるようになったことは感謝でいっぱいです。

沖縄にいて離れていますが、いつもメンバーたちのことを思っています。メンバーが不自由な日々を忍耐強く過ごし、親やアシスタントを鍛えながら、生きていることに感嘆しています。愛実の会の歴史は、メンバーがいて、親たちがいて、アシスタントがいて、支えてくれる人がいて綴られてきました。私の娘や天に還った仲間たちのことを思います。ひとりひとりが愛実の会の歴史作りにも貢献してくれました。そしてほかの居場所に移ったメンバーや働き手も同じように歴史を担ってくれたひとりひとりです。私は親の一人として愛実の会設立に参加したので、親のみなさんと深刻な話も笑い飛ばしながら、助け合った日々を宝のように思っています。

今も愛実の会の現場で葛藤しながら、産みの苦しみを担い続けているメンバー・アシスタントそしてご家族のみなさんに感謝しています。楽しいこともたくさん企画して快適な居場所作りをしていってください。

35年前、私たち親世代が何も無い中で、夢見た「居場所」が「生活介護」「居宅支援」として実現していることは嬉しい限りです。次の課題に向けて「コパン」が始まっていると伺い、嬉しく思っています。きっと現場は大変だと想像しています。必要な助けが備えられますようにと祈ります。私が知る限り、名古屋周辺の仲間たちの居場所作りは親から始まりました。同じ立場で居場所作りにも苦闘してきた人が言いました。「苦労したけど、楽しかったね。夢を実現させたんだから」と。私も同感です。今を担って下さっている方々に感謝しています。そして今の苦労が楽しい思い出になることを信じています。

歴史は今も刻まれて行きます。みなさんの一日一日が愛実の会の歴史を作っていきます。次にバトンタッチするまで、ちょっぴりほろ苦くて、甘酸っぱい日々を大事に過ごしてください。私は、平和でなければ、私たちの日常は守られないと思うので、沖縄で「平和を壊すな！」と祈り、船に乗り、絵を描いています。小さな働きです。自分の代では実現しなくても、次の代に受け継がれて、いつか実現すると思って励んでいます。

愛実の会の担い手のみなさん、ご活躍を祈っています。

愛実の会の理事、会員、賛助会員の皆様、

これからも愛実の会を見守ってください。



【NPO愛実の会寄付者名(敬称略・順不同)2022年7月1日～2022年10月31日】

★寄付金

堀尾 勇夫	三矢 かな江	丸山 恵津子	奥山 喜正
佐藤 全弘	野崎 典子	住田 貞次	尾関 静枝
榊原 喜代子	武井 陽一	矢澤 綾子	木村 慎吾
足立 克己	藤原 信子	古田 真喜子	柴田 京子
比企 敦子	黛 八郎	水野 享好	出口 尚
池上 譲治	宮川 昭明	伊藤 久子	山崎 京子
鶴崎 祥子	榎本 久美江	島 牧人	青山 鶴江
柏木 實	楽 有紀美	竹田 朋子	水戸 潔
山中 高	阿部 健二	佐藤 千萬子	伊藤 あつ子
前沢 まき代	近藤 洋	五十嵐 靖	福島 真
倉田 節子	加藤 由美子	矢口 由美子	戸田 真二
吉谷 尚之(複数回)	京都みぎわキリスト教会		

★紙風船夢づくり

酒井 淳子	牧野 みゆき	吉戸 瑛子
牧野 雅樹	山田 美紀	後藤 宣彦
間瀬 滝子	矢澤 綾子	都筑 典子

愛実の会の活動、紙風船夢づくりのために多くの方々より寄付金を多数お寄せくださりまして、ありがとうございます。

居宅介護事業所あみ

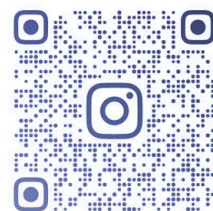


Instagram



サービス提供責任者 齊藤美佐子

実は…居宅介護事業所あみは「Instagram」デビューしました♪
居宅の仕事は、生活介護のような活動はなく、外出するイベントもありません。Instagramの内容に派手さはありませんが、「こんなことしているんだ」ぐらいの、ゆる～い気持ちで見てください。皆さん、QRコードを読み取り、フォローして「いいね」をポチッと押して下さいね♪
または、「居宅介護事業所あみ」で検索してください。



KYOTAKUAMI

事務局からのお知らせ

メンバーが日々安心な生活ができ、私たちにできることを考えメンバーとのかかわりを大切にしていきたいと思います。ぜひ皆さんのお力をお貸しいただければ幸いです。

2022年度 寄付金 目標額250万円

- * アシスタントの支援体制の充実
- * 紙風船人形劇の制作
- * 土地建物建設資金(シェアハウス)

当法人への寄付金は、税法上の優遇措置として寄付金控除がうけられます。寄付金受領証明書は確定申告の折まで大切に保管してください。

愛実の会の詳しい活動については、ホームページにて掲載しております。ぜひ、ご覧ください。皆様のご多幸をお祈り申し上げます。

【所在地・連絡先】

特定非営利活動（NPO）法人 愛実の会

□ 居宅介護事業所あみ（ホームヘルプ）

〒455-0021 名古屋市港区木場町9番地の24

TEL：052-693-7645 FAX：052-746-2639

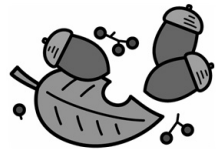
□ 障がい者デイセンター愛実（生活介護）

〒455-0021 名古屋市港区木場町9番地の24

TEL：052-693-5897 FAX：052-691-7889

E-mail info@aminokai.com

ホームページ http://www.aminokai.com



または

【「認定NPO愛実の会」寄付金のお願い】

郵便振替 □座番号 00850-6-187490

□座名称 特定非営利活動法人 愛実の会 1□1,000円 何□でも結構です

- ◆ 寄付金（賛助会費・NPO愛実の会の活動に関する費用）
- ◆ 紙風船夢づくり（人形劇制作費、公演活動に関する費用）